

「 臨機応変な対応 」

広島県 広島市立広島中等教育学校 1年 栗末 菜央

平成 26 年 8 月 20 日、私の住む町広島県広島市八木で大規模な土砂災害が起こった。その頃、私は小学 2 年生だった。いつにも増して強い雨と、花火のような雷、怖くてあまり寝つけなかったのを覚えている。

私の眠っている間、同じ八木地区では過去に例がない恐ろしい災害が起こっていた。朝目が覚めると、ニュースの速報で、どの番組を見ても広島市八木の中継をしていた。私の家は発生した所から 1 キロくらいしか離れていない。信じられない思いで外に出た。すると、外にはすごい数のヘリコプターと今まで見たことのない色の山を目にした。本当に起きてしまったんだと心配になった。土砂災害の起きた場所には、私の友達がたくさん住んでいた。八木では、52 人、全体では 74 人の死者が出てしまった。

大切なのは、災害を甘くみないという意識だと思う。広島市八木は特に、マサ土という雨に弱いもろい砂が多く分布している。広島は、雨に弱い県だ。ただでさえ雨に弱いのに、集中豪雨が降れば、ひとたまりもない。自然の恐ろしさも忘れてはならないと思った。

私の母校、梅林小学校では毎年 5 年生が阿武山に登るという伝統がある。でも、土砂災害から数年しか経っていないにも関わらず、登って大丈夫なのか、という地域の方や先生たちの不安な思いもあった。だが、今の若い世代に土砂災害のおそろしさについて考えてほしい、という考えから登ることになったそうだ。

阿武山は山の中でも特にマサ土が多く災害が起きやすいと地域の方がおっしゃっていた。もっと早くに対処方法を考えていれば…と思った。山を登ると中、崖くずれや地すべりのあった所がたくさんあった。下には家も見え、こんな土が襲ってきたらと思うと、ぞっとした。

次に砂防ダムを見に行った。八木砂防ダムは、私が思っていたよりはるかに大きく、強そうだった。これなら土砂災害からも守ることができると思った。実際に広島県広島市安佐北区では、砂防ダムが土石流をせき止め、下流域の住宅街への侵入を防いだ。ダムによってたくさんの人の命が守られた。

私は、経験から学んだことが 3 つある。

1 つ目は、訓練が大切ということだ。確認していてもいざというときに焦ってしまうことがある。しっかりと体にしみこませておくのが大切だ。梅林小学校でも、「おむかえ下校」や、「土砂災害学習」などを実施している。

2 つ目は、事前の準備だ。災害はいつやって来るか分からない。避難持ち出し袋や、たんすの位置、大きな家具の固定などだ。私の家は大きな家具はほとんど固定している。また、寝室には大きな家具を置かないようにしている。このように、安全のために、大きい家具の設置には、気をつけた方がよい。とくにドアの前などは注意が必要だ。

3 つ目は、災害が起きた時の動き方だ。状況に合わせて臨機応変に対応することが大切だ。避難していい時なのか、どこに避難するのか、などだ。避難途中の土砂災害にも気をつけなければならない。特に高齢の方は早く避難を開始することも必要だ。西日本豪雨では、死者 141 人中 100 人、7 割以上が 60 歳以上の高齢者だった。高齢者の人と一緒に避難するのも 1 つの手だと思う。

災害は人の手で全てくい止めることはできない。大切なのは起こる前の準備だと思う。訓練、避難持ち出し袋、大きな家具の固定などだ。もし起きてしまっても、落ちついて、避難または自宅待機をする必要がある。起きてからでは遅い。土石流のパワーとスピードは、とてつもなく凄まじい。不安を感じたら雨が弱いうちに避難が大切だ。明るいうちの避難も重要だ。

これから、災害について改めて考えて、対策していきたい。